

土壌診断結果表

【基本分析】

①pH(水):土が酸性かアルカリ性かを見る指標です。

②pH(KCl):pH(水)の値との差は、土中の交換性塩基の量が適正かどうかの目安となります。その差は1.0前後が望ましいです。

③EC:塩類がどのくらい溜まっているかの指標です。硝酸態窒素のほか、カリ・苦土・石灰がたまっても高くなります。

④窒素:北海道の基準に則り、水田は「湛水培養窒素」、露地作物は「熱水抽出窒素」、ハウス作物は「硝酸態窒素」を測定しています

⑤リン酸:水田・牧草のみ「ブレイン2法」、その他は「トルオーグ法」の値を載せています

⑥カリ・苦土・石灰:この3つは、どれか1つが多すぎると拮抗作用が起きてしまい、他の2つが吸収されにくくなります。比をみるのもそのためです。

【特別分析】

⑦CEC:土がどのくらい交換性塩基を保持できるかという目安です。20前後が標準的です。

⑧塩基飽和度:土がどのくらい交換性塩基を抱えているかの割合です。CECと塩基の量から割り出します。CECを分析していない場合、仮に20として算出しています。

⑨腐植:土中の有機物の量です。これが多いとCECが高まる傾向にあります。また、物理性も改善されます。

⑩ホウ素:微量元素の一つ。アブラナ科やてんさいはとくに好みます。

⑪ケイ酸:特に水稲はケイ酸を好むので重要です。

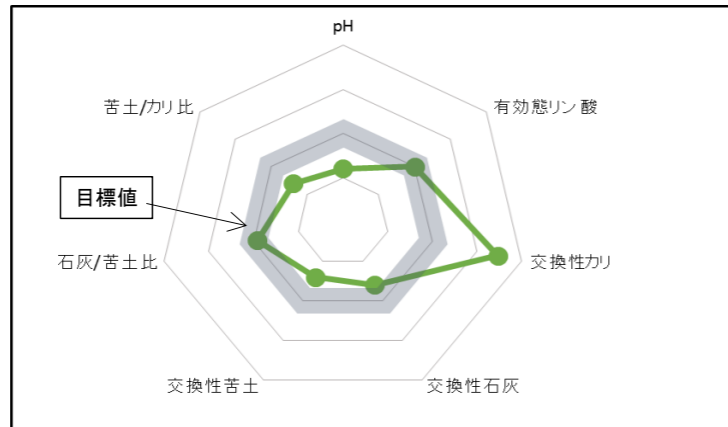
⑫リン酸吸収係数:これが高いと、土がリン酸を固定してしまい、作物がリン酸を有効に使いにくくなります。

ご依頼者氏名:		土壌採取日:	
市町村:		地帯区分No	
担当者氏名:		は種(定植)日:	
圃場No:		サンプル名:	

【基本分析】

	分析値	基準値	適不適
pH	①(水)	5	5.5~6.5 低い
	②(KCl)	4.2	- -
③EC	0.1	- -	
④窒素	6	- -	
⑤有効態リン酸	20	10~30 適正	
交換性カリ	30	15~30 適正	
交換性石灰	300	170~350 適正	
交換性苦土	40	25~45 適正	
石灰/苦土比	5.4	2~6 適正	
苦土/カリ比	3.1	2以上 適正	

※石灰の基準値はCECと相関があるため、CEC値がない場合、標準的なCECとして算出しています。



【特別分析】

	分析値	基準値	適不適
⑦CEC	20	20以上 適正	
⑧塩基飽和度	66.76	60~80 適正	
⑨腐植			
⑩ホウ素(ppm)		0.5~1.0	
⑪ケイ酸		-	
⑫リン酸吸収係数		-	

作物:		土性:	
品種:		土壌型:	
有機物施用		前作物:	

(t)

【分析値に基づいた施用量】(kg/10a)

成分	基肥	起生期	幼穂形成期	止葉期	開花期以降
窒素					
リン酸					
カリ					
苦土					

※反収が kgの場合を想定しています(地帯区分の平均反収より算出)

※速効性窒素は最低でも kg/10aは確保してください。

【施肥例】

銘柄	施用量(kg/10a)	商品説明

【施肥設計コメント】

※分析の基準値・分析値に基づいた施用量は「北海道施肥ガイド2015」に準拠しています。

【分析値に基づいた施用量】

北海道施肥ガイド2015に準拠した施用量を出します(施肥ガイド内に記載のない作物に関しては空欄です)

【施肥例】

弊社おすすめ肥料、土壌改良材を用いた例をご紹介します。様々な状況を鑑みた上で、上記の施用量と少々異なる施用量をご提案する場合があります。

【施肥設計コメント】

施肥例の補足です。